

アズビル株式会社のご紹介

証券コード: 6845 (東証プライム)

アズビル株式会社
取締役 代表執行役副社長
横田 隆幸

azbil

目次 ~ 本日も説明させていただきたいこと

- 1. アズビルについて … p. 3
- 2. 中期経営計画・長期目標 … p.15
- 3. 株主の皆さまへの還元 … p.21
- 4. サステナビリティへの取り組み … p.24
- 5. ご参考情報 … p.30

アズビルについて

What is azbil?

オートメーション（計測と制御）の技術で、
人と社会をつなぎ、未来をひらくお手伝いをしています

アズビル株式会社

Azbil Corporation

東証プライム上場

証券コード 6845

旧社名：山武ハネウエル

創業

1906年（明治39年）

創業 **120**年

売上高

2024年度実績

3,003億円

営業利益率

2024年度実績

13.8%
(414億円)

株主還元

2025年度計画

11期連続増配
1株当たり年間26円

● オートメーションのリーディングカンパニー

オートメーションにかかわる機器・システムの製造・販売からコンサルティング、エンジニアリング、メンテナンスサービスまでを一貫して提供

● 先進技術と現場の知見が融合したユニークなソリューションを提供

AI・クラウド・ネットワーク技術等と長年現場で蓄積した知見・Big Dataを融合させた製品・サービスを提供

● 安定した収益基盤

長期的な保守・更新ニーズに対応し、景気変動にも強い収益基盤を確立

● オートメーションの役割の拡大、事業成長

脱炭素社会の実現、半導体やデータセンター等の高度な製造、環境構築に向けてオートメーションが果たす役割が拡大、新たな成長機会

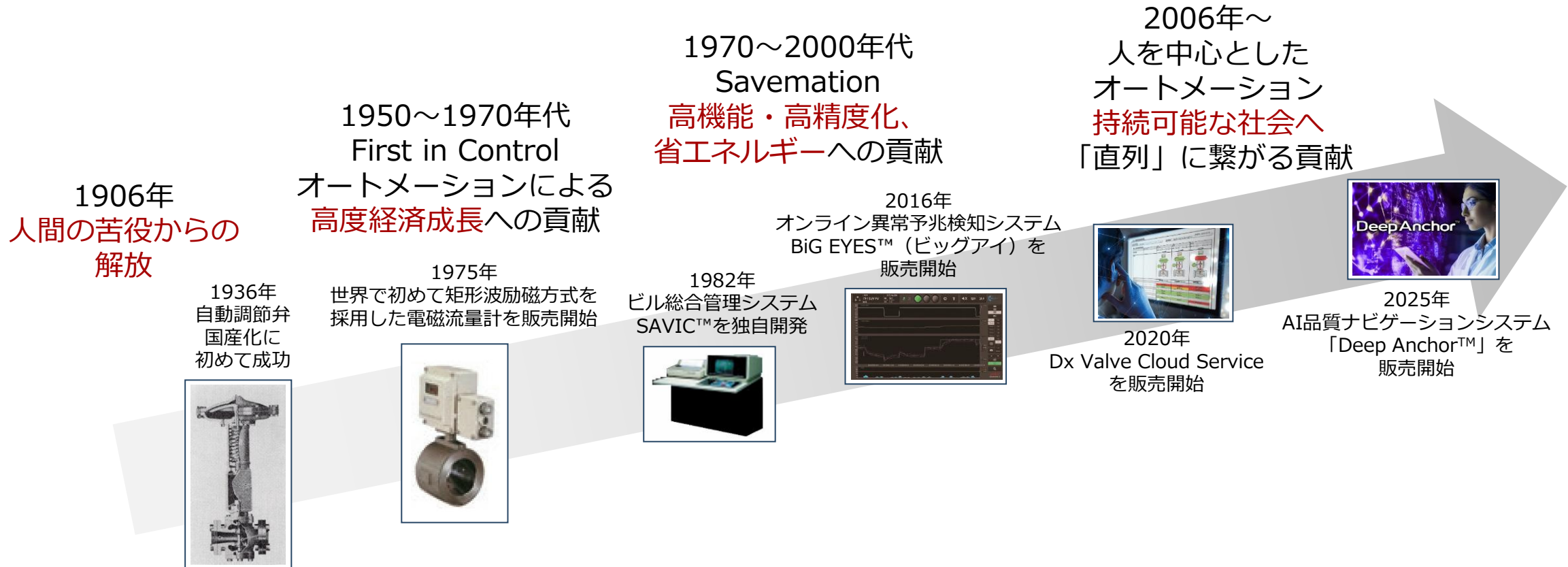
創業のDNA — 企業理念と沿革

- 創業のDNAを企業理念に、120年にわたり、それぞれの時代の要請にお応えしてきました

azbilグループ理念

azbil

私たちは、「人を中心としたオートメーション」で、人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、地球環境に貢献します。



azbilグループのオートメーション

- azbilグループは、オートメーション事業を通じて、工場やプラント、オフィスや商業施設、暮らしを支えるライフラインなど、社会のあらゆる場所で、安心、快適、達成感、地球環境への貢献といった普遍的な価値を提供し続けています

動画でのご紹介

azbilグループ紹介—計測・制御編

https://www.azbil.com/jp/corporate/pr/movie/movie_measurement_and_control.html



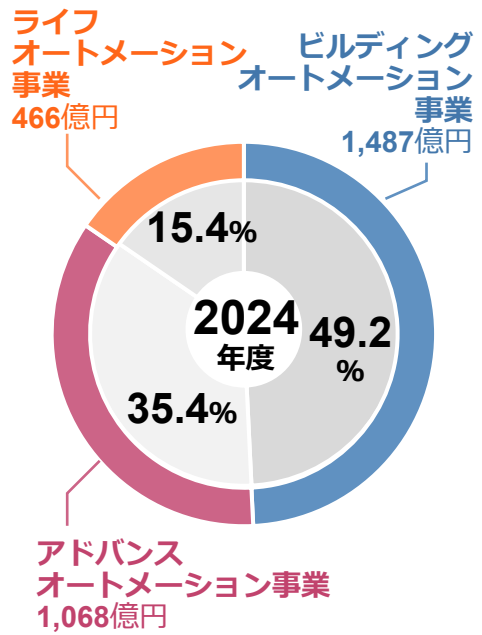
目に見えないところで人々の暮らしを支える計測と制御の技術で広がるオートメーションの役割
— 私たちazbilグループが社会とお客さまの課題解決を現場からお届けします

3つのオートメーション事業

2024年度売上高 3,003億円 | 2024年度営業利益 414億円

2024年度海外売上高 631億円 | 売上高比率 21.0%

セグメント別売上高



アドバンスオートメーション事業

AA (Advanced Automation)
 製造現場における課題解決に向け、装置や設備の最適運用をライフサイクルで支援する製品やソリューション、計装、エンジニアリング、保守サービスを提供。さらにIoT・AIやビッグデータを活用し、省エネルギーの実現や安全な操業をサポートします

ライフオートメーション事業

LA (Life Automation)
 建物、製造現場で得た計測・制御の技術やサービスを、ガス・水道などのライフライン、住宅用全館空調などに展開。「人々のいきいきとした暮らし」に貢献します



ビルディングオートメーション事業

BA (Building Automation)
 あらゆる建物に求められる快適性や機能性、省エネルギーを独自の環境制御技術で実現。建物のライフサイクルに応じたサービスによって、快適で効率のよい執務・生産空間の創造と環境負荷低減に貢献するとともに、健康で生産性の高い働き方をサポートします

BA ビルディングオートメーション事業

事業フィールド

- ・ オフィスビル
- ・ データセンター
- ・ ショッピングセンター
- ・ ホテル
- ・ 研究所
- ・ 工場
- ・ 病院 など

クラウド 各種クラウドサービス

検知する
センサ・計測機器

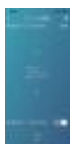


守る
セキュリティシステム



設定する

ユーザーズ
オペレーションズ
機器



制御する
調節器、コントローラ



管理する



BAシステム

調節する
バルブ、操作器



当社の特長・強み

空調制御分野のパイオニア

- 大型建物向け空調制御分野で長年の実績

クラウド・AIを活用した環境制御技術

- ネットワークや運用データを活用

ライフサイクル型事業

- 新設、サービス、改修まで建物のライフサイクルに即した安定的なビジネスモデル

フルラインアップ

- センサ・バルブからコントローラ・システムまでを自社で開発・生産

トータルソリューション一貫体制

- 設計・施工・エンジニアリングからメンテナンスまで

事業機会、注力分野

- 国内の都市再開発／リニューアル需要堅調
✓ 2万棟を超える新設のストック
(既設・サービスストック)
- 相次ぐデータセンター建設計画発表
✓ シンガポール、台湾などで大型案件受注獲得
- 海外事業 (東アジア、中国、東南アジア等)

既設・サービスストック市場の拡大と新市場伸長

- 獲得した新設ビジネスが、既設・サービスといった「**ストック市場**」に
- 国内で2万棟を超える新設のストックから既設・サービス需要が発生、BA事業売上高に占める構成比率は7割
- 更に、**データセンター**等の新たな市場が国内・海外で伸長



オフィス等の
大規模再開発

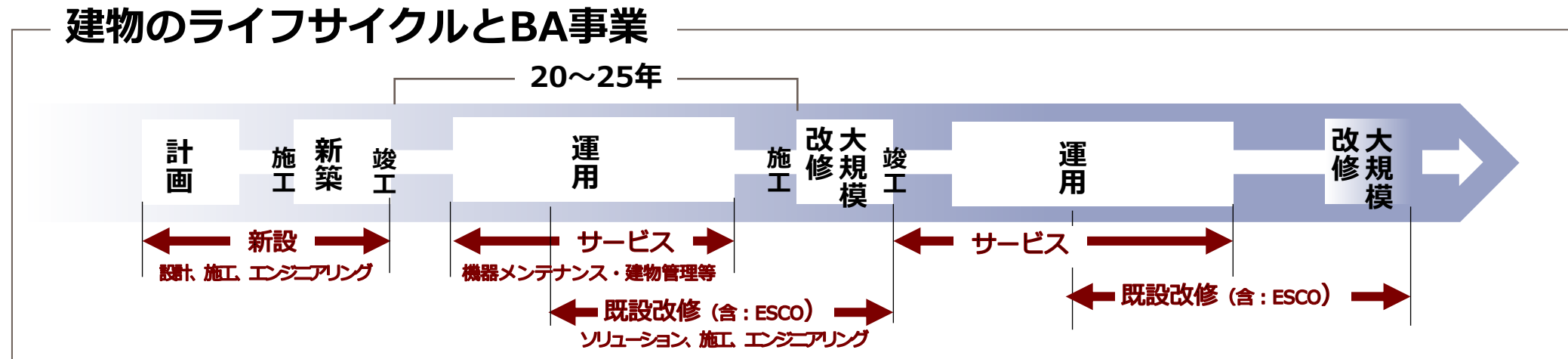


AI需要等により
データセンター
建設が拡大・
加速



ビルディング
オートメーション
システム
savic-net™G5

大規模建物の快適性からデータセンターまで





アドバンスオートメーション事業

事業フィールド

- ・石油・石油化学・化学
- ・電力・ガス
- ・食品・薬品
- ・半導体製造装置 など
- ・鉄鋼
- ・電気・電子

クラウド

PA (Process Automation)

調節する

コントロールバルブ



各種クラウド計測するサービス プロセスセンサ



制御する

調節計



検出する

センサ・スイッチ



監視する

協調オートメーションシステム



FA (Factory Automation)

azbil

© 2026 Azbil Corporation. All Rights Reserved.

当社の特長・強み

生産現場でのオートメーションを長年にわたりリード

- 100年以上にわたる計測・制御技術の蓄積
- 現場の知見と最新の計測制御技術、情報技術を融合
- 製品からエンジニアリング、保守サービスまでの一貫した高付加価値ソリューションとして提供

基盤製品とシン・オートメーション

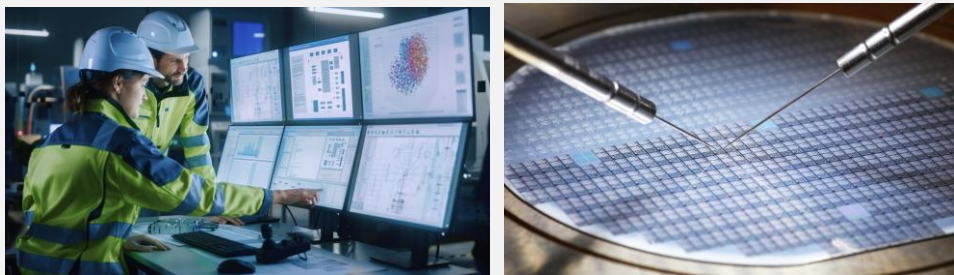
- 基盤製品の進化と先進的な技術を用いたシン・オートメーションの提供

事業機会・注力分野

- 最先端の半導体や高機能素材製造に必要なセンサーやアプリケーションニーズ拡大
 - ✓ 高精度なMEMSセンサーを自社で開発・生産
- プラントの保全・安全確保から、熟練オペレーター減少対応、高効率な生産実現のためのDX化
 - ✓ バルブクラウドサービス、AIを活用した自律化システムを提供。導入プラントが年々増加
- 海外事業
 - ✓ PA：中国、東アジア、東南アジア、インド、北米等
 - ✓ FA：中国、東アジア、東南アジア、北米、欧州等

シン・オートメーション（商品力強化による競争優位性の拡大）

独自技術を軸に事業領域拡大に向けた新製品・サービスを「シン・オートメーション」と名付け、最先端の半導体製造装置からプラントまで、様々な現場で課題を解決し、成長



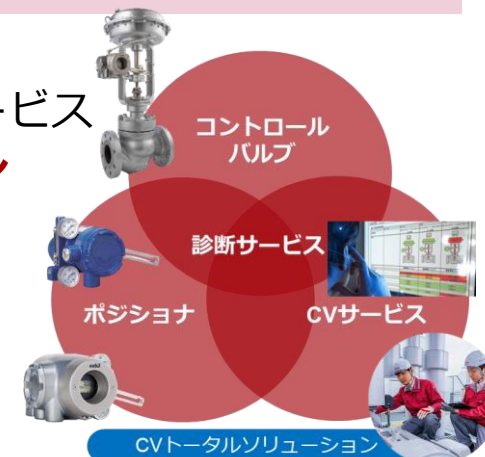
サファイア隔膜真空計

- 複数の特許を持つ、サファイアを接合した**MEMSセンサーを独自開発**
- **先端半導体の生産**においては、真空チャンバーにおける真空センシング精度や安定性は非常に重要
- 半導体前工程 1工場当たり数百台の需要、今後も**半導体製造装置市場は大きく拡大**



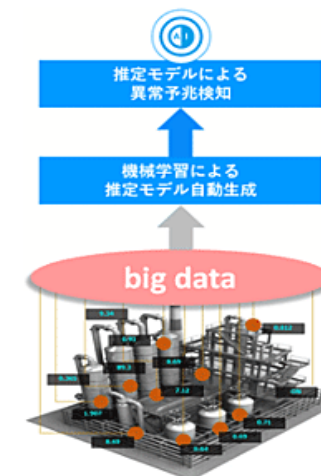
CVトータルソリューション

- 製品（CV：コントロールバルブ等）からメンテナンス、バルブ診断サービスまでを手掛ける**国内最大手アズビル**だからこそできるソリューション
- プラントの安全・安定操業や保全最適化に貢献
- 国内プラントにおいて1万台以上の**CVクラウド診断**の精度は日々向上



プラント自律化システム

- 長年のDCS経験から**アナログデータ特性の深い知見とAIを融合**し自律化を実現
- 国内のさまざまな現場で**7,000を超えるアズビル製AI自律モデル**が稼働中
- 製造業において、設備老朽対策・人手不足対応、再生可能エネルギー向け新技術など様々な進化が求められ、**AIによる自律化は大きな市場成長**を見込む



LA ライフオートメーション事業

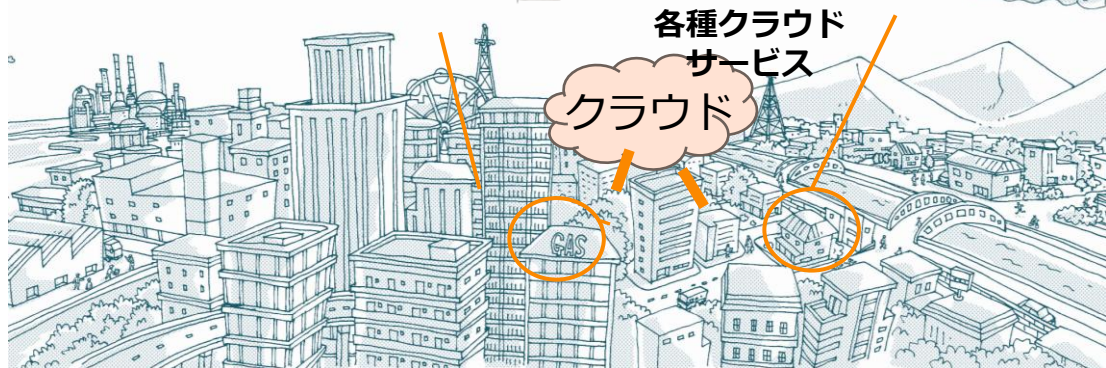
事業フィールド

- ・ライフライン（ガス・水道メーター）
- ・一般戸建て住宅向け全館空調

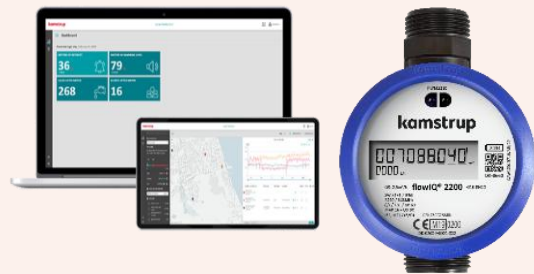
水道メーター

ガスメーター

全館空調システム



デンマークKamstrup社と
協業しスマートメーター
および漏水検知クラウド
サービスを展開予定



当社の特長・強み

ライフラインの維持・向上に貢献

- 主要サプライヤーとしてガス・水道メーターを長年にわたって供給
- 計量法に基づく安定した更新需要

DX・クラウド技術の活用

- ガス・水道メーターのスマート化と、これに通信とクラウドシステムを融合した **SMaaS™** (Smart Metering as a Service) 事業を展開

生活空間の快適性、健康

- 全館空調システムによる高いエアクオリティの提供

※ SMaaSはアズビル金門株式会社の商標です

事業機会・注力分野

- ガス・水道メーターのスマート化とデータサービスへの需要拡大
 - ✓ スマートメーターを開発、SMaaSのためクラウドのプラットフォームを保有
- インフラ老朽化への対応
 - ✓ 他社と協業し、日本における水道の漏水検知サービスの事業化を検討

※ 2024年10月に、事業ポートフォリオの再構築の観点から、ライフオートメーション事業の一分野を構成していた海外子会社アズビルテルスターを事業譲渡

スマートメーター/SMaaS (Smart Metering as a Service)

- 顧客課題の解決に必要なデータを収集・提供し、分析することによって高付加価値のサービスを提供とします



海外事業とグローバル体制

- グローバルに広がる拠点間の密接な連携で、世界中のお客さまのニーズに対応します

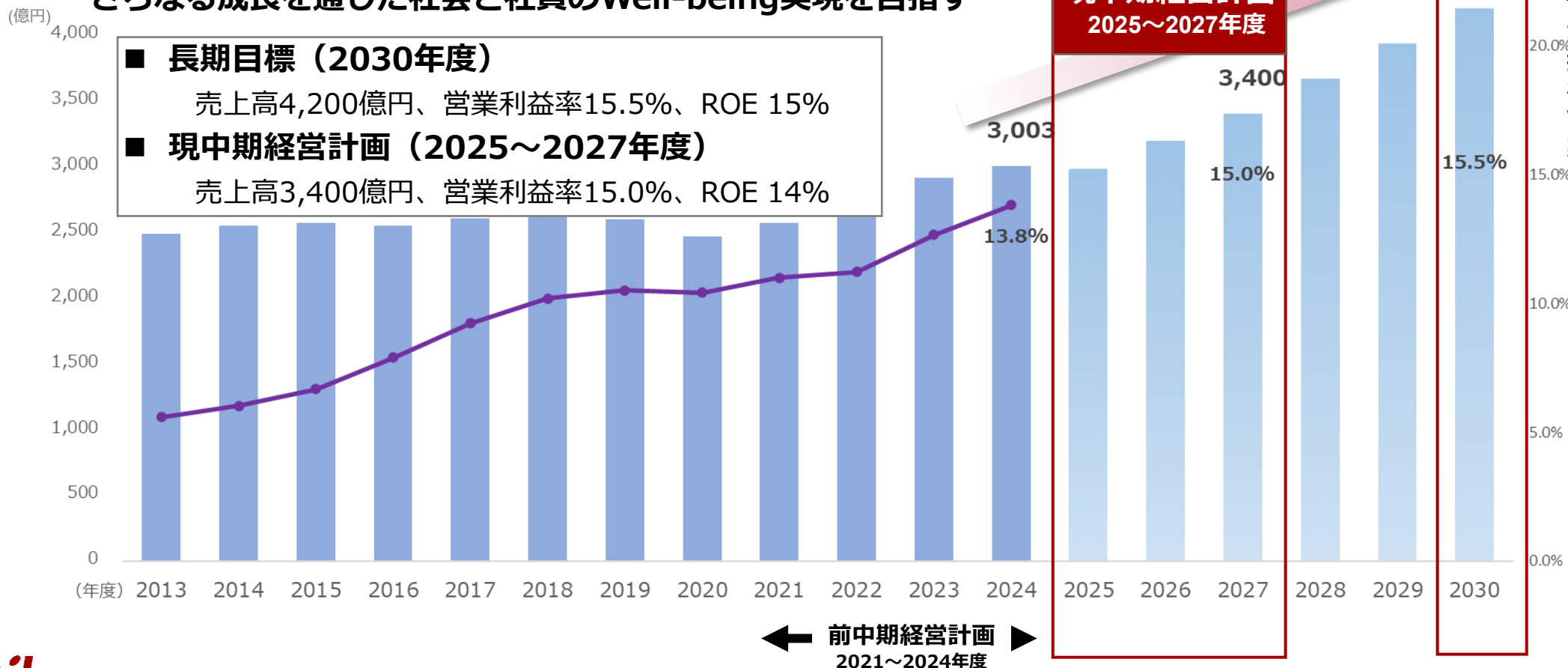


* アズビルベトナムプロダクション有限公司 (2026年度生産開始予定)

中期経営計画・長期目標

長期目標と現中期経営計画（2025～2027年度）～持続的な成長に向けて

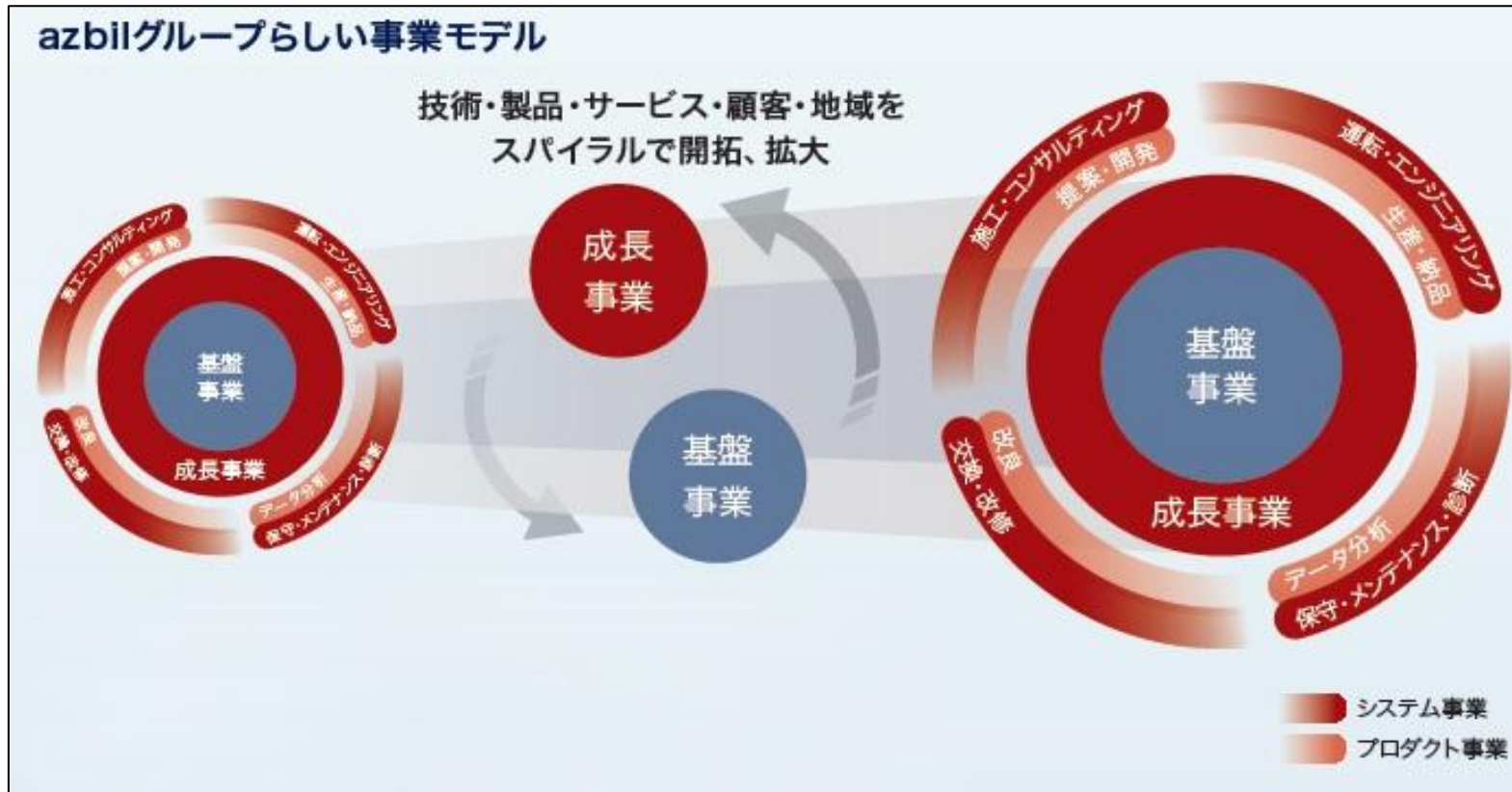
- 持続的社会的実現に「直列」に貢献するため、事業を展開、**着実に収益を改善**
- **長期目標（2030年度）** 実現に向けて、段階的に中期経営計画を立案・実施
- 現中期経営計画（2025～2027年度）では、“**進化・共創**”をテーマに、**azbilグループらしい事業モデル**で、人的資本等必要な投資を積極的に行いながら売上拡大と収益性向上の両立を実現、さらなる成長を通じた社会と社員のWell-being実現を目指す



持続可能な社会に
“直列”に繋がる
貢献による事業
拡大を通じた、
社会と社員の
Well-beingの
実現を目指す

azbilグループらしい事業モデル

- 長年にわたって構築した幅広い顧客基盤（工場・プラント、商業ビル、ライフライン等）との強い関係に基づく「**基盤事業**」および半導体等の技術革新やカーボンニュートラルのような社会課題対応を新たな事業機会と捉えた「**成長事業**」で事業を拡大
- 成長事業では、地域の拡大（海外市場）、競争優位性の拡大（商品力強化）に注力



成長事業

顧客の技術革新および社会課題への対応が求められる市場での事業。国内外の顧客に、最先端の新商品・サービスを投入することで顧客基盤を拡大

GXソリューション、データセンター、半導体製造装置向けセンサー、スマートメータリングサービス

基盤事業

長年にわたって蓄積した既存の顧客基盤での事業。DX推進等により、持続的に収益性向上が可能。顧客基盤の拡大に伴い成長も実現

既設システム改修、サービス事業等

事業成長に向けた積極的な投資

- azbilグループらしい事業モデルを強化するため、以下の投資を積極的に実行、持続的成長を実現

人的資本投資

総額
人件費 **+320億円**

- 働きがいと成長実感の高い環境・人事制度整備(評価・報酬制度、選択性の高い働き方等)
- 経営戦略に連動したキャリア自律型の育成プログラム
- 財務施策・福利厚生施策と連動したインセンティブプラン

商品力強化

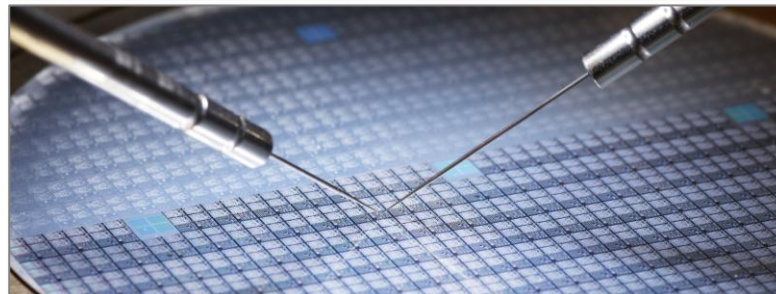
研究
開発費 **+90 億円**

- クラウド・AIアプリ開発拡大、MEMSセンシング技術、アクチュエータ技術による商品力強化
- R&Dのコア領域においても、他社との共創を実施
- R&Dマネジメント体制、人材育成・技術継承の仕組みづくり

DX推進

DX (IT)
投資 **+50 億円**

- 商品DX、営業DXによる商品・サービスの創造
- Fit to Standardによる業務フロー変革
- 生成AI・知見/データの活用による生産、開発、サービス、エンジニアリング等での技術継承
- サイバーセキュリティ対策強化



「進化」の証と「共創」の進捗 ～ 2025年度当社プレスリリースから

商品力強化に努めた「進化」の証として経済産業大臣賞等を受賞

2026年
1月22日

アズビルのAIベースCBMプラットフォーム「BiG EYES MM™」が
「第9回インフラメンテナンス大賞 経済産業大臣賞」を受賞
— AI技術×操業データにより、保全業務従事者のWell-beingに貢献 —

2026年
1月28日

「2025年度省エネ大賞 経済産業大臣賞」を受賞
実運用を重視したZEB指向型建築で、約70%の省エネルギーを達成

「共創」の取り組みが着実に進捗。再生エネルギーやデータセンター市場の開拓に向けた提携が更にインフラやAI、バイオの分野に拡大

2025年
9月25日

アズビル金門、次世代超音波式水道スマートメーターで水道インフラ課題解決に貢献 —
Kamstrup社との協業で、日本の水道インフラ課題解決に貢献 —

2025年
12月25日

アズビル、バイオエコノミー実現に向けたバイオ生産次世代化プロジェクト
「メトリクスMATSURI」に参画
— 計測・制御技術をコアに、バイオものづくりの社会実装を目指す —

2026年
2月18日

アズビルとDATAFLUCTが資本業務提携契約を締結
— AI技術の活用で建物運用における新たな価値創造へ —

中期経営計画の進捗 ～ 2025年度連結業績計画

中期経営計画初年度となる2025年度業績計画は着実に進捗、
BA事業の業績を牽引役として、**上方修正した業績計画の達成を目指す**

- インフレ、コスト上昇等、不確実性の高い状況は継続しているが、BA事業を取り巻く事業環境は引き続き堅調、AA事業も堅調なプロセスオートメーション（PA）市場に加えて回復の兆し
- 売上高は、前年度におけるアズビルテルスター（ATL）譲渡による影響（△146億円）から前年度比で僅かに減少となるが、BA、AA両事業が伸長し実質増加。営業利益は5期連続の増益を見込む
- 親会社株主に帰属する当期純利益は前年度にATL売却益（76億円）の計上があったことから減益

[単位：億円]

	2024年度 通期 実績	2025年度			対前年度 比較	
		上期 実績	下期 修正計画 (2025/10/30)	通期 修正計画 (2025/10/30)	増減額	増減%
売上高	3,003 2,857	1,328	1,651	2,980	△23 +122	△0.8 +4.3
営業利益	414 410	177	278	455	+40 +44	+9.7 +10.8
%	13.8 14.4	13.3	16.8	15.3	+1.5pp +0.9pp	
経常利益	421	183	272	455	+33	+7.9
親会社株主に帰属する当期純利益	※2 409	134	200	335	△74	△18.2
%	13.6	10.1	12.1	11.2	△2.4pp	

[単位：億円]

2025年度 通期 当初計画 (2025/5/13)	当初計画 比較	
	増減額	増減%
2,970	+10	+0.3
430	+25	+5.8
14.5	+0.8pp	
422	+33	+7.8
310	+25	+8.1
10.4	+0.8pp	

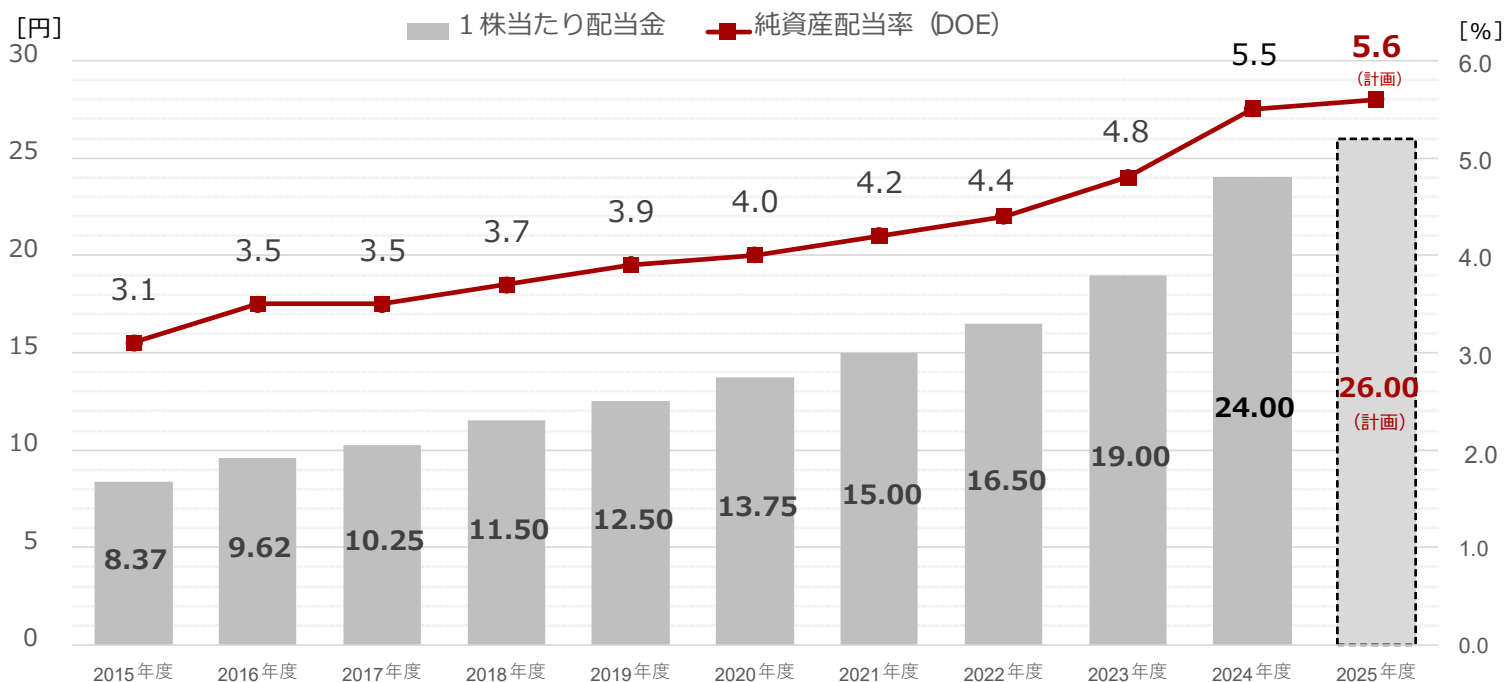
※1 売上高、営業利益
下段はATLの業績（売上高：146億円、セグメント利益：4億円）を除いた数値

※2 親会社株主に帰属する当期純利益への影響額
ATL出資持分譲渡による売却益は76億円

株主の皆さまへの還元

株主還元の推移

- 配当は、11期連続の増配となる1株当たり年間26円を計画（2025年度）
- DOE（純資産配当率）は、継続的な向上により6%を目指す
- 自己株式の取得・消却に加え、自己株式を活用した人的資本への投資を実施



自己株式取得総額 (億円)	19		29	49	99		99	99	99	149	149
自己株式取得総数 (万株)	480		571	748	1,487		901	1,068	877	1,246	1,083

※ 1株当たりの配当金、自己株式取得総数は、2024年10月および2018年10月における株式分割の影響を加味し遡及して修正

株主還元の基本方針



株主還元の充実、成長に向けた投資、健全な財務基盤の3つのバランスに配慮しながら、規律ある資本政策を展開し、azbilの企業価値の維持・向上を図る

- 株主の皆さまへの利益還元を経営の重要課題として位置付ける
- 株主還元は配当を中心に、自己株式取得も機動的に組み入れる
- 株主還元の水準については、連結業績、自己資本当期純利益率(ROE)・純資産配当率(DOE)の水準、将来の事業展開と企業体質強化のための内部留保等を総合的に勘案して決定する
- 配当についてはその水準の向上に努めつつ、安定した配当を維持する

サステナビリティへの取り組み

azbilグループのマテリアリティと独自のSDGs目標

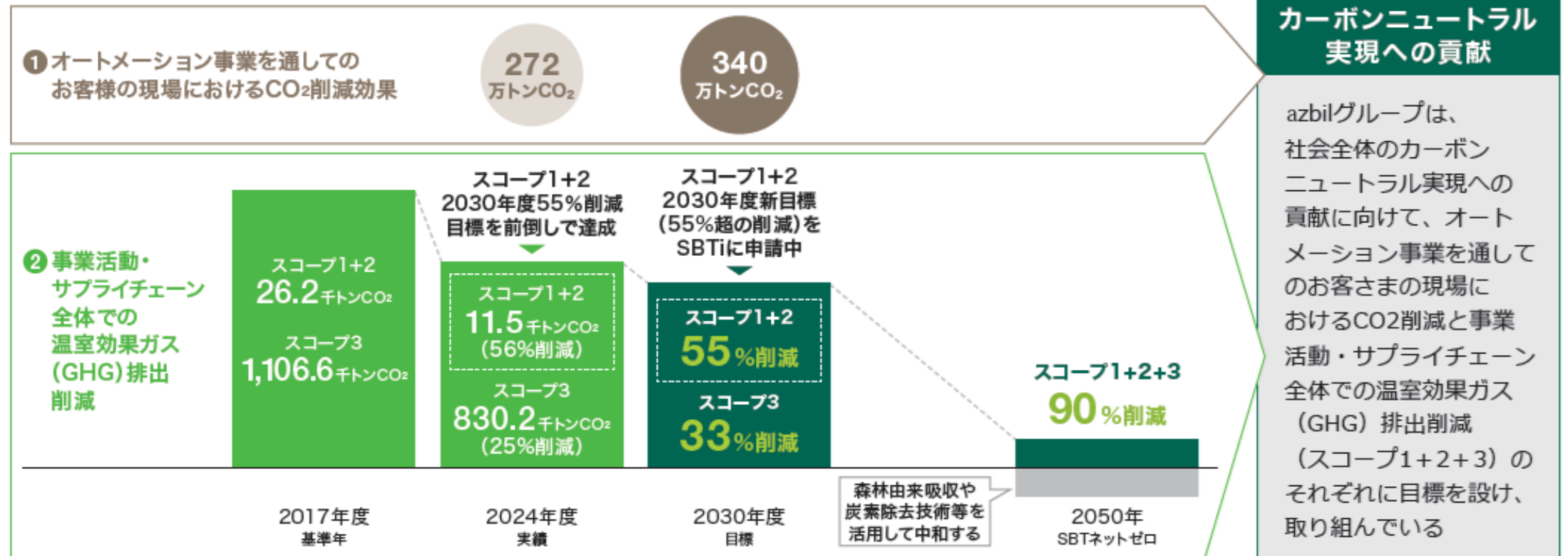
持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献とサステナビリティの観点からマテリアリティを特定し、事業や企業活動に関する7つの項目については、SDGsの領域において目標を「azbilグループSDGs目標」として具体的に定めるとともに、企業が社会に存立するうえで果たさなければならない基本的責務である3つの項目については、CSR活動において具体的な数値目標を設定。それらの目標の達成に向けて様々な取組みを行うことで、「サステナビリティ経営」を推進

マテリアリティ		azbilグループSDGs目標		
		基本目標	ターゲット	
事業	環境	I 協創による地球環境とエネルギー課題の解決への貢献	環境・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●お客様の現場におけるCO₂削減効果（2030年度）340万トンCO₂/年^{※1} ●温室効果ガス排出削減目標（SBT^{※2}認定済）（2030年度） 事業活動に伴うGHG排出量（スコープ1+2）2017年基準55%削減 サプライチェーン全体のGHG排出量（スコープ3）2017年基準33%削減 ●全ての新製品をazbilグループ独自のサステナブルな設計^{※3}、100%リサイクル可能な設計^{※4}とする（2030年度） ●サステナブルなサービス^{※5}を支えるプロフェッショナルスキル^{※6}を持つ人財を、2021年度比3倍の延べ1,800名^{※7}へ
	資源循環			
	イノベーション	II 新たなオートメーションによる持続可能な生産現場・職場環境、安心・快適な社会の実現	新オートメーション	<p>「計測の高度化」、「データ化」、「自律化」などにより、社会が求める時々の課題を解決、付加価値を創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2030年に延べ8,000事業所^{※8}で事業環境変化に強い状態を実現 ●2030年に延べ600万人^{※9}にストレスフリー、多様な働き方につながる環境を提供
企業活動全体	社会	III サプライチェーンにおける社会的責任の遂行と地域・社会への貢献	サプライチェーン社会的責任	<ul style="list-style-type: none"> ●お取引先様と共に、SDGsを共通目的として連携し、サプライチェーンにおけるCSRの価値共有を実現。 独自の評価指標で方針・体制・取組み・有効性を評価^{※10} ●地域に根差した社会貢献活動を全ての事業所^{※11}において実施し、社員一人ひとりが積極的に参加^{※12}
	人材			IV 健幸経営と持続的な学習による社会課題解決の基盤強化
基本的責務	ガバナンス	商品安全・品質	企業が社会に存立する上で果たさなければならない基本的責務	<ul style="list-style-type: none"> * 商品安全・品質、コンプライアンスについては、「azbilグループCSR推進会議」において、部ごとに業務に直結した指標及び目標をCSR活動計画として設定 * コーポレート・ガバナンスについては、2022年、指名委員会等設置会社へ移行し、社外取締役を過半数とする取締役会及び3つの法定委員会の体制のもと、適切な監督と実効性を確保 - 2025年、社外取締役が取締役会議長に就任、報酬ポリシーの改定（執行役報酬の業績連動比率の拡充、重要業績評価指標の見直し、マルス・クロバックの範囲拡大）を実施し、コーポレート・ガバナンスを強化
		コーポレート・ガバナンス		
		コンプライアンス		

お客さまの現場でのCO₂削減と脱炭素移行計画

社会全体の脱炭素化への動きを受け、お客さまや社会におけるエネルギー課題の解決に貢献するとともに、脱炭素化に向けた移行計画を策定、取り組みを実施

azbilグループが目指す独自のカーボンニュートラル実現に向けた取組み・目標設定



オートメーション事業を通じての、お客さまの現場におけるCO₂削減

azbilグループは、自らの事業活動に伴うCO₂削減以上に、オートメーション事業を通じて、お客さまの現場でより大きなCO₂削減効果を上げ、脱炭素社会の実現に貢献





azbilグループは、今年創業120周年を迎えます。創業の志を忘れず、引き続きオートメーション事業を通じて、自らの成長を実現するとともに、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。当社グループをご理解、ご支援いただく株主の皆さまには、成長による企業価値向上と株主還元でお応えしてまいります。引き続きご支援のほどお願い申し上げます。

IRに関するお問合せについて

- IRに関するお問合せ先：アズビル株式会社 グループ経営管理本部 IR室
 - ・お電話でのお問合せ：03-6810-1031
 - ・ウェブサイトからのお問合せ：

https://form.azbil.com/form/pub/contact/ir_form

- 当社ウェブサイト「[株主・投資家情報](#)」ご案内
開示資料のほかにも、社長インタビューや
納入事例、統合報告書、財務データなど、
様々な情報を発信しています。
ぜひご覧ください

<https://www.azbil.com/jp/ir/index.html>



本日のご説明および質疑応答の要旨も後日掲載いたします

- IRメール配信のご案内
決算発表等の最新のIR情報をメールでお届けします



ご参考情報

株式情報

株式の状況 (2025年9月30日現在)

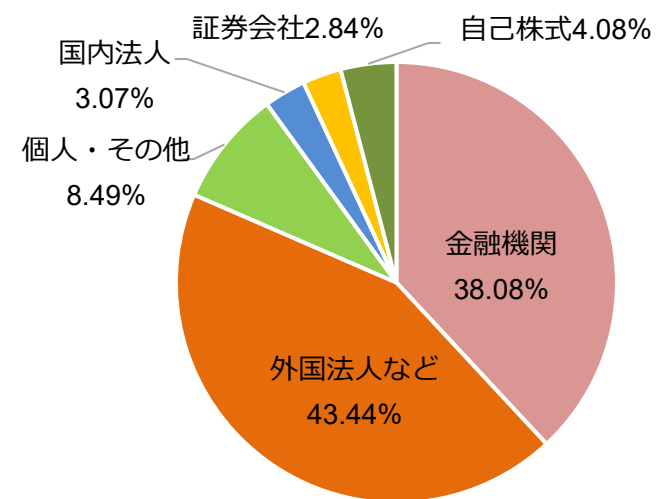
発行可能株式総数 2,237,680,000株
発行済株式総数 541,372,736株
株主総数 13,408名

大株主

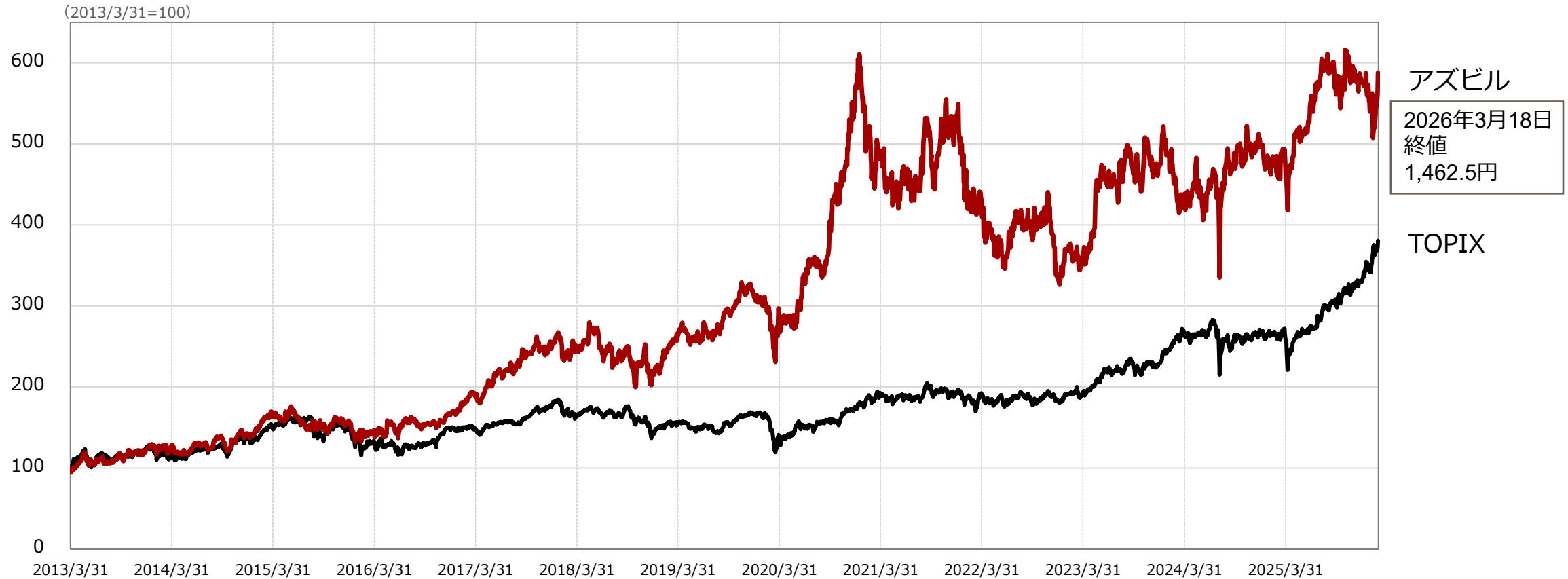
株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	77,062千株	14.84%
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505001	46,992千株	9.04%
明治安田生命保険相互会社	41,712千株	8.03%
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	28,236千株	5.43%
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リ フィデリティ ファンズ	15,812千株	3.04%

※持株比率は自己株式を控除して計算しています。

所有者別情報

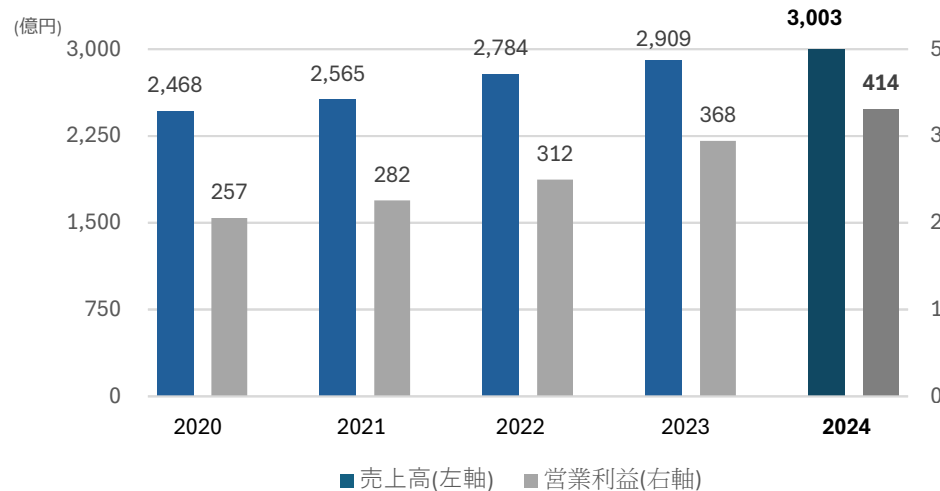


アズビル・TOPIX株価推移比較 ～ 事業成長に合わせて株価も上昇

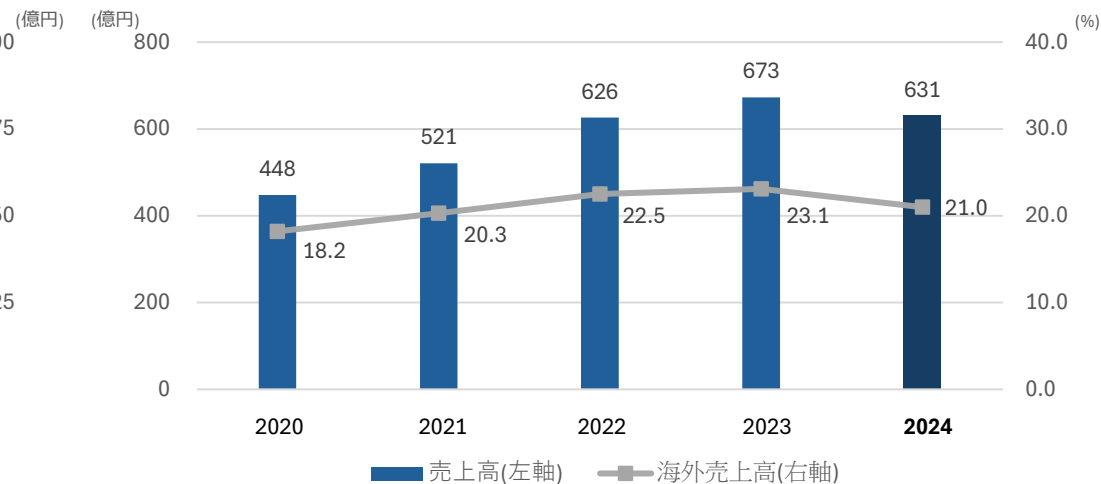


財務・非財務ハイライト 売上高/営業利益推移等

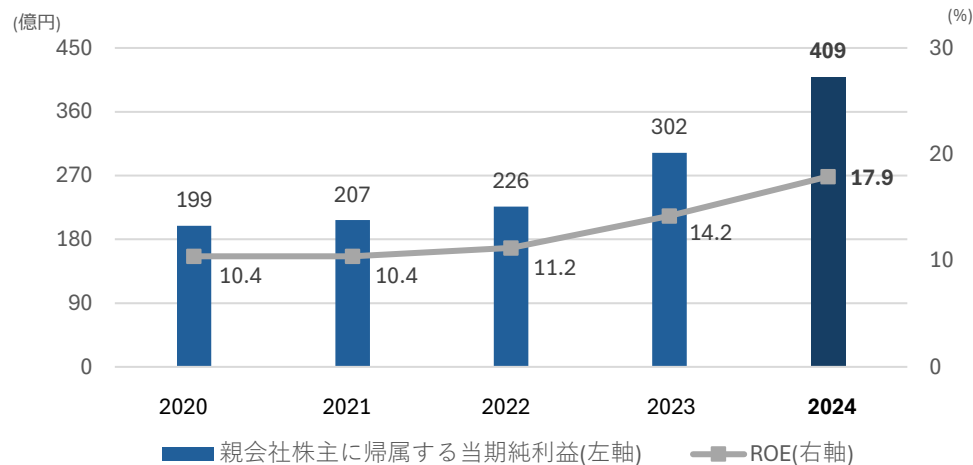
売上高／営業利益



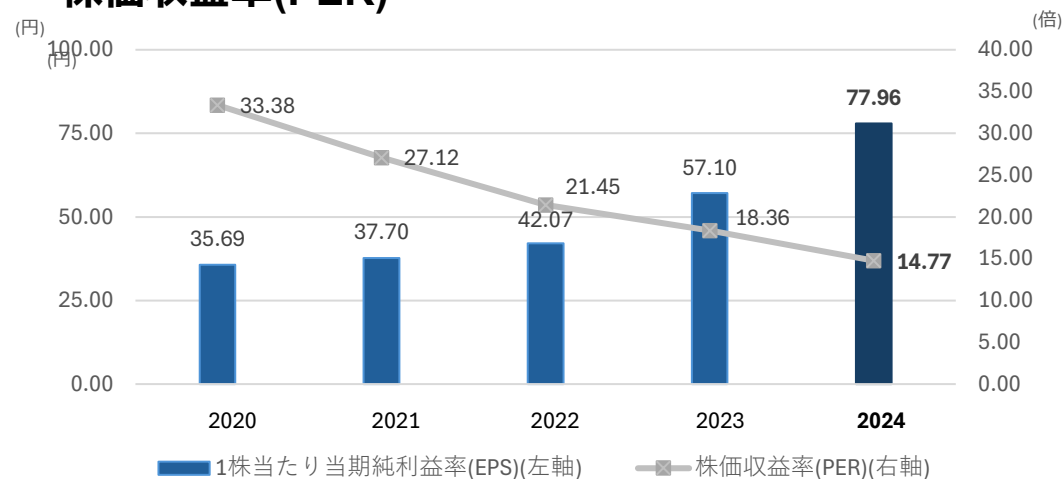
海外売上高／海外売上高比率



親会社株主に帰属する当期純利益／自己資本当期純利益率 (ROE)

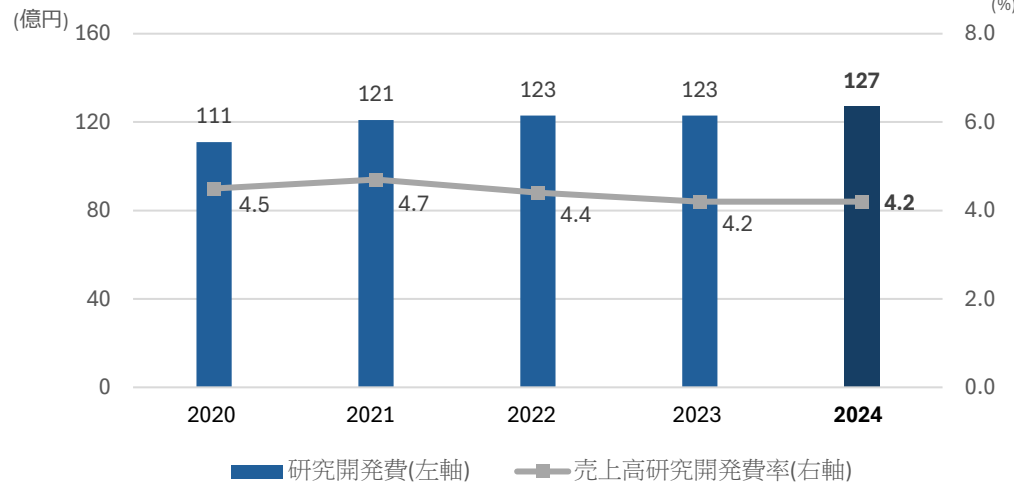


1株当たり当期純利益率(EPS)／株価収益率(PER)

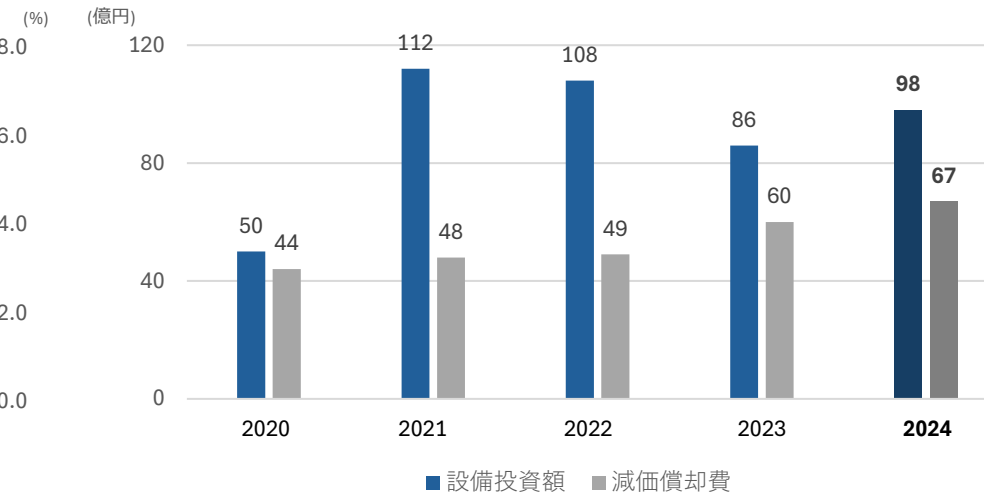


財務・非財務ハイライト 研究開発費/売上高研究開発費率推移等

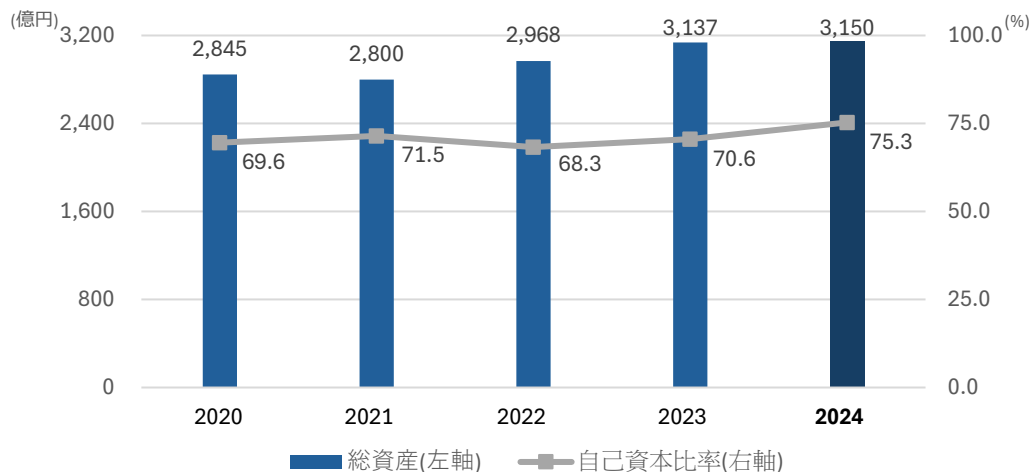
研究開発費/売上高研究開発費率



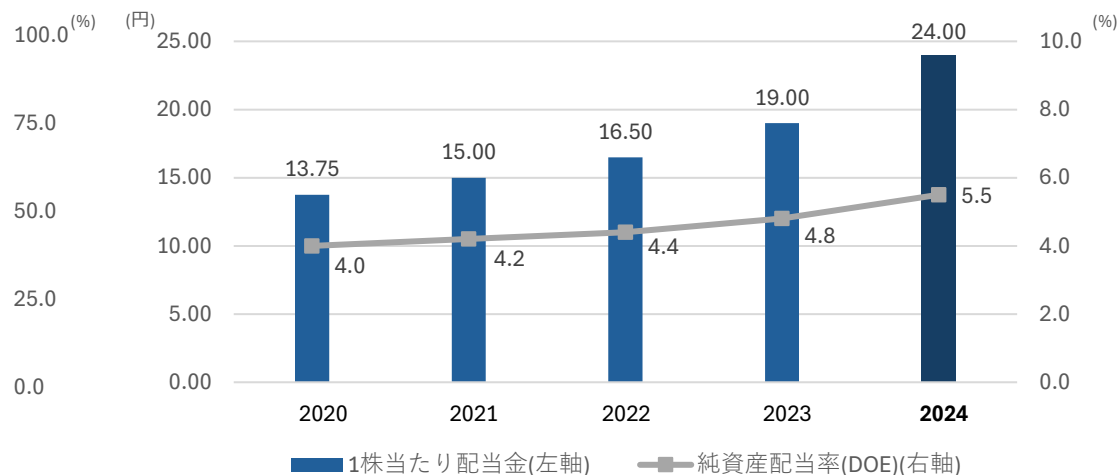
設備投資/減価償却費



総資産/自己資本比率



1株当たり配当金/純資産配当率(DOE)



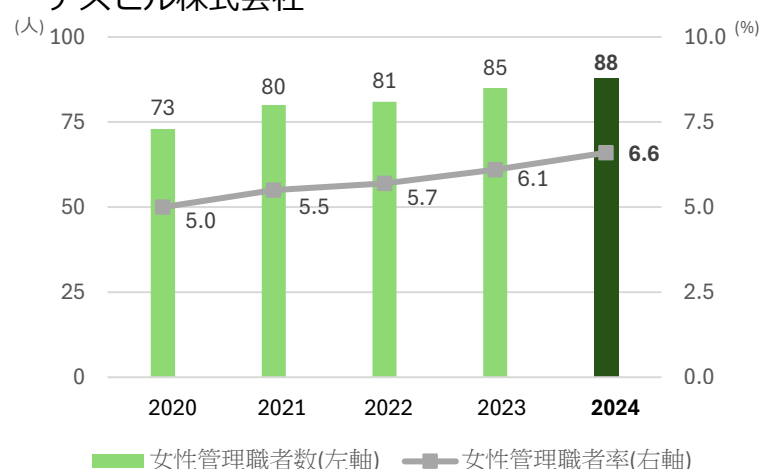
財務・非財務ハイライト 従業員数推移 等

連結従業員数

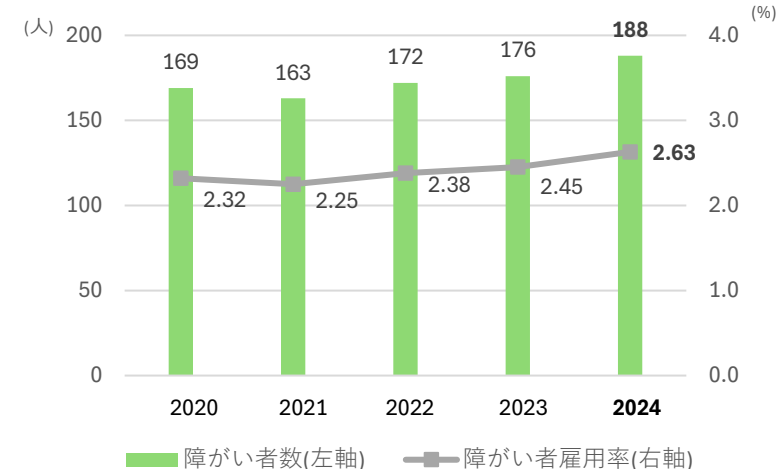


女性管理職者数／女性管理職者率

アズビル株式会社

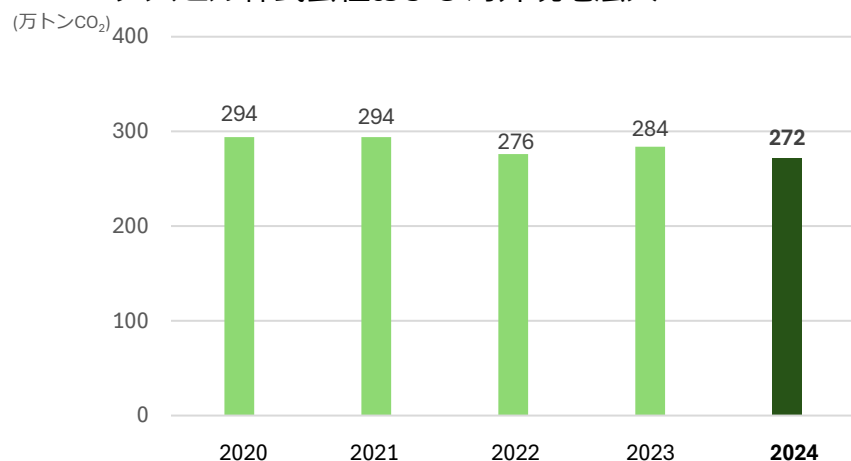


障がい者数／障がい者雇用率



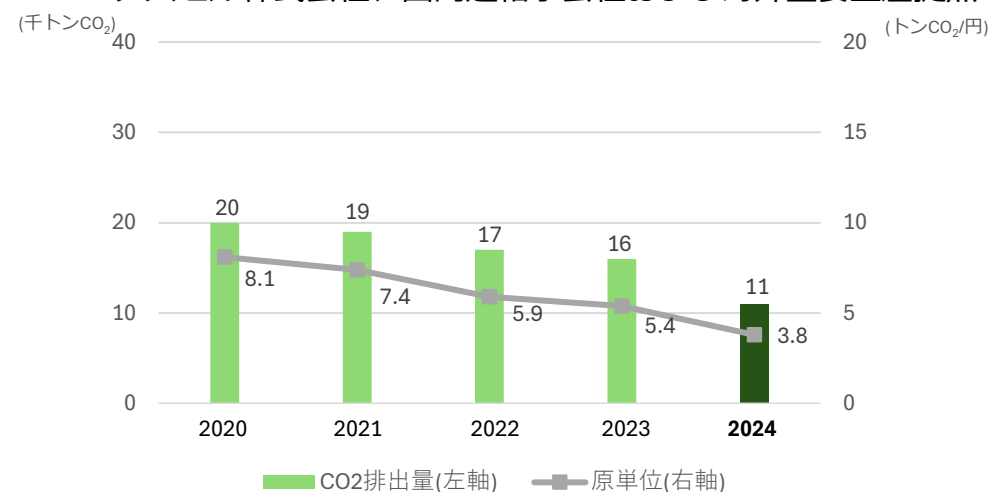
お客様の現場におけるCO₂削減効果

アズビル株式会社および海外現地法人



CO₂排出量（スコープ1+2）／原単位

アズビル株式会社、国内連結子会社および海外主要生産拠点



サステナビリティに関する開示

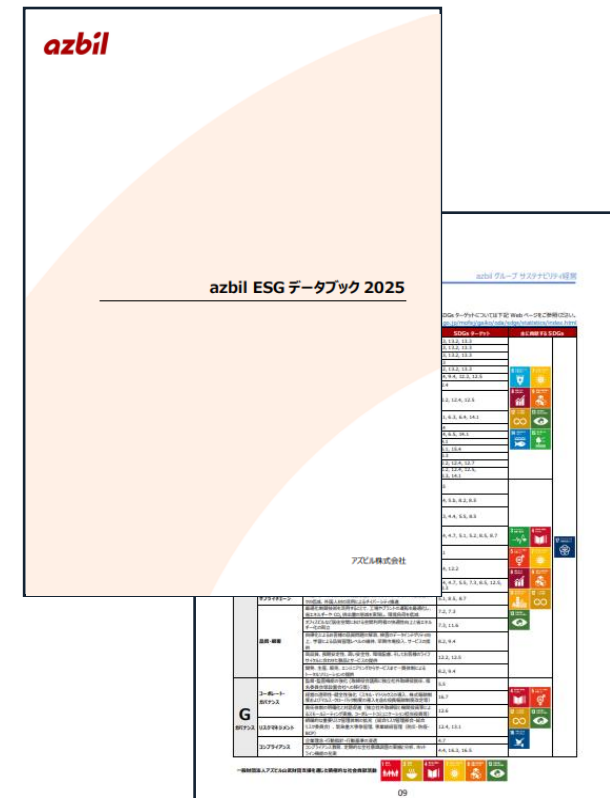
azbilグループでは、ご紹介したサステナビリティに関する取り組みと成果をウェブサイトや統合報告書（azbil レポート）で開示しているほか、様々なデータをESGデータブックとして公開しています。



アズビル Webサイト



統合報告書「azbil レポート」



ESGデータブック

注記事項 ①

- 1) 金額は表示単位未満切捨てで記載
- 2) セグメント名称および、各セグメントを構成するサブセグメントの名称・内容は次のとおり

BA：ビルディングオートメーション

AA：アドバンスオートメーション

- ・ CP事業（コントロールプロダクト事業）：
コントローラやセンサ等のファクトリーオートメーション向けプロダクト事業
- ・ IAP事業（インダストリアルオートメーションプロダクト事業）：
差圧・圧力発信器やコントロールバルブ等のプロセスオートメーション向けプロダクト事業
- ・ SS事業（ソリューション&サービス事業）：
制御システム、エンジニアリングサービス、メンテナンスサービス、省エネソリューションサービス等を提供する事業

LA：ライフオートメーション

- ・ ライフライン分野：
ガスメーター、水道メーター、警報装置や自動遮断弁といった安全保安機器、レギュレータ等の産業向け製品の販売
- ・ 生活関連（ライフ）分野：
戸建住宅向けに全館空調システムを提供

- 3) azbilグループの売上高は、例年、第1四半期連結会計期間には低く、第4四半期連結会計期間に最も高くなる傾向がある一方で、固定費は恒常的に発生するため、相対的に第1四半期連結会計期間の利益は低く、第4四半期連結会計期間の利益は高くなる傾向をもつ

注記事項 ②

4) azbilグループのSDGs目標・ターゲット

- ※1 **340万トンCO₂/年**：2030年度の電力排出係数は、2019年当時のエネルギー基本計画を参考に当社独自の推計値を採用
- ※2 **SBT (Science Based Target)**：科学的根拠に基づいて設定した温室効果ガスの排出削減目標
- ※3 **サステナブルな設計**：地球規模の環境課題（脱炭素化、資源循環、生物多様性保全）解決に貢献する製品の創出・提供を目指した設計
- ※4 **100%リサイクル可能な設計**：経済的および技術的に実行可能な最も効果的な技術 [BAT (Best Available Technology)]の範囲
- ※5 **サステナブルなサービス**：オートメーションの技術によりお客さまの現場の生産性改善や安定操業に貢献することに加え、当社グループの3つの環境重点分野（脱炭素化、資源循環、生物多様性保全）において、お客さまや社会の環境課題を解決し、持続可能な社会の実現に貢献できるフィールドエンジニアリングサービス
- ※6 **プロフェッショナルスキル**：3つの環境重点分野での課題解決実現に向けて重要な、以下の専門スキル保有者（社内資格制度）を対象とする
 - ビル建物向けのリモートメンテナンス、エネルギーマネジメントサービス、クラウドサービスなどのネットワークサービスのライセンス取得者
 - プラント・工場向けの高度制御、省エネルギーソリューション技術、バルブメンテナンスのプロフェッショナル認定者
- ※7 **プロフェッショナルスキルを持つ人財を、2021年度比で3倍の延べ1,800名にする**：社員一人ひとりがフィールドエンジニアリングサービスの技術革新に合わせ、複数のプロフェッショナルスキルを取得した場合も含んだ資格保有者の延べ人数

注記事項 ③

4) azbilグループのSDGs目標・ターゲット

- ※8 **新オートメーションターゲット、8,000事業所で事業環境変化に強い状態を実現**：2022年4月時点で530事業所で稼働。2030年には15倍の8,000事業所を目指す
- ※9 **新オートメーションターゲット、600万人にストレスフリー、多様な働き方につながる環境を提供**：2022年4月時点で60万人に提供。2030年には10倍の600万人への提供を目指す
- ※10 **独自の評価指標で方針・体制・取り組み・有効性を評価**：FTSEなどの外部ESG評価をベースにした独自の仕組みと評価制度
- ※11 **社会貢献活動を全ての事業所**：国内・海外を含む全事業所
- ※12 **社員一人ひとりが積極的に参加**：azbilグループ社員数規模の参加を目指す
- ※13 **azbilグループで働くことに満足している社員／仕事を通じて成長を実感する社員**：国内のazbilグループで毎年行っている社員満足度調査で高いレベルと考えられる65%、すなわち、全社員の2/3の水準を目指す
- ※14 **女性管理職比率**：女性管理職比率10%はアズビル株式会社（単体）の目標

免責事項

連結業績計画は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があることをご承知おきください。